

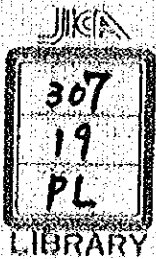
No. 49

昭和52年2月 初版

各国事情のしおり

—— ヨルダン編 ——

1977. 2



国際協力事業団

国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. - 4	307
	19
登録No. 02655	PL

は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料としてヨルダンより帰国された専門家からの調査報告をもとに作成したものであります。

本小冊子は、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、対日感情、治安等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正を行ってゆく方針であります。本小冊子が同国に赴任する専門家各位の何らかの参考になれば幸であります。

最後に、御多忙中のところ進んで本小冊子原稿執筆の労をとられたヨルダン国派遣衛星通信専門家鈴木充氏に深甚な謝意を表します。

昭和52年2月

国際協力事業団

総務部長 木村 敬 三

JICA LIBRARY



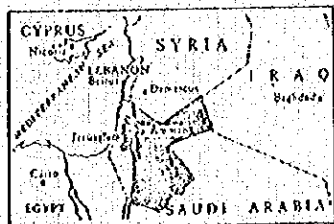
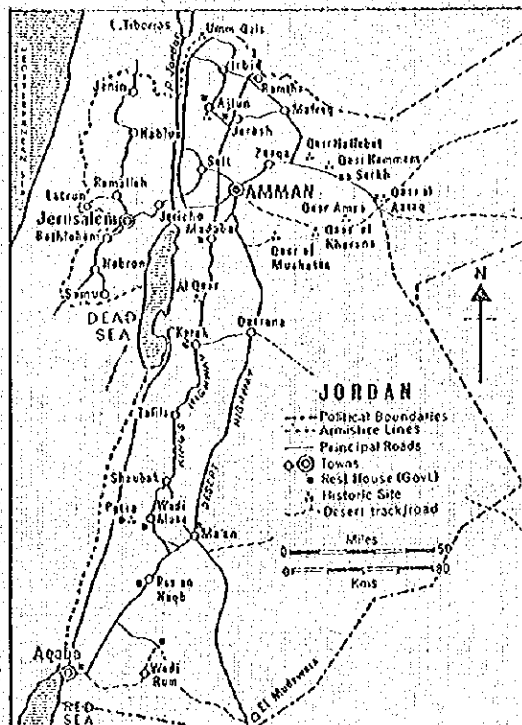
1044195[4]

目 次

I 任 国 事 情	1
1. 住宅（住宅事情、家賃、ホテル、什器・備品）	1
2. 食品（食料事情、価格、外食、携行すべき調味料）	5
3. 衣類・日用品（衣料事情、日用品）	12
4. 使用人	14
5. 医療（医療事情、医薬品、疾病の種類、健康管理上の 注意事項）	15
6. 子弟の教育機関（教育制度、教育機関、授業料、通 学方法）	18
7. 娯楽設備（保養地、映画、スポーツクラブ、テレビ 放送）	19
8. 電力	22
9. 交通（交通事情、タクシー、ハイヤー、レンタカー、 自動車購入、運転免許、ガソリン代）	22
10. 為替（相場、対日送金、滞在費の受取方法）	28
11. 出入国管理（税関検査、外人登録、ビザの更新手続）	30
12. 便宜供与（種類、カウンターパート、免税特権）	32
13. 通信・運輸（郵便事情、運送）	33
14. 言語（公用語、第一外国語の普及度、現地語学習の 必要性、語学学習の施設）	36
15. 気候（気候、年間気温等）	37
16. 治安（一般情勢、夜間外出、緊急時における連絡方 法）	39

17. その他（対日感情、一般の風俗・習慣、新聞・雑誌、理髪、美容、クリーニング、買物、今後赴任される専門家への要望事項、祝祭日と勤務時間）	39
II 大使館等連絡先	57

ヨルダン：ハシュミット王国略図



- * 面積 96,188KM²
但し、ヨルダン川東岸地区のみであれば
8,800KM²
- * 人口 262万人(1971年)
1972年の人口調査では、ヨルダン川東岸
人口は174.7万人、西岸人口が72万人で、
合計246.7万人であった。
- * 首都 アムマン (AMMAN)
- * 通貨単位 1ヨルダン・ディナール=900円
- * 宗教 大部分が回教
- * 教育 6・3・3制で男女別、アメリカ、イギリス
の初、中学校もある。
- * 公用語 アラビア語
- * 住民 主としてアラビヤ人。人口の10%程度はヨ
ルダン川以西に住んでいたパレスチナ人とみ
われている。
- * 参考 各種の鉱物及び水資源に恵まれない国で、輸
出はリン・鉄石程度。
国内産菜もセメント工場を除くと、他に大規
模のものはない。

I 任 国 事 情

1. 住 宅

(イ) 住 宅 事 情

昭和50年秋のバイルート動乱勃発以来、レバノン国からヨルダン国への移住者が急増し（昭和50年末で約3万人が移住、大半はアムマン市に居住していると云われている）、アムマン市内のホテルや一般住宅の宿泊事情は極端に悪化している。現在、ホテルの予約は大変難しく、一般借家の新規契約時における家賃は甚だしく高騰している。最近は日本に似た建築ブームで、4～5階建アパートの建築が、市の周辺部で盛んに行われている。永い間、工事を休止していたホリディ・イン・ホテルの新築工事再開や、インタコンチネンタル・ホテルの拡張計画が発表されているので、住宅事情は遂次緩和されてくるものと思われる。

エージェントは数軒あるが、住宅入手の方法としては、新聞広告か、現地有力者の仲介によることを勧める。新聞広告料は、1回が3デナール（2,700円）であった。日本大使館法律顧問のアリ・ダジヤー氏は、非常に顔が広く、且つ温厚な人柄で相談しやすい方であるから、住宅仲介等もこの方に相談されると良い。同氏の肩書を参考に記しておく。

現：商工会議所会頭、及びヨルダン・日本友好協会事務局長、

日本大使館法律顧問

前：在ヨルダン日本名誉総領事

住宅の賃貸契約は、契約期間が最低1万年であり、家賃は年額前払方式がとられている。契約期間を延長する場合には、契約家賃額を据置きのみで、再契約が可能である。

(ii) 家賃

私は昭和50年9月に、新聞広告に応募した15軒の内からアパートを選んだが、丁度ベイルートからの移住の始まる以前であったため、幸いにも手頃な家賃で、住つ9ヶ月間の契約が可能であった。しかし、現在は大変厳しく、家賃は日に日に上昇すると云った感じであるから、専門家は現地到着前に、予め日本大使館から住宅関係の情報を入手しておく必要がある。

契約時期	建坪	家具	家賃(年額)	部屋数等	備考
昭50.9	23	有 ※ ナフキンに 至るまでの 全てが完備	デナール 1,200 (108万円)	サロン(1) 居室(1) 寝室(1) 食堂(1) 台所 浴室(1)	建築後5年 (3階建) 大型石油ストーブ による暖房方式 加入電話無し 車庫無し
昭50.11	27	有 全 上	2,250 (202.5万円)	サロン、居室、 食堂で(1) 寝室(2) 台所(1) 浴室(1) シャワー室(1)	新築(5階建) 集中暖房方式 エレベーター付 加入電話無し 車庫無し
昭51.2	50	無	4,900 (441万円)	サロン、居室、 食堂で(1) 寝室(4) 台所(1) 浴室(2) 客用便所(1)	新築(3階建) 集中暖房方式 加入電話有り 車庫無し

(ハ) ホ テ ル

アムマン市内にはホテルが数多くあるが、それらの大部分は現地向向であるから、ここでは、外国人の利用頻度の高いホテルに限定して紹介する。

No	ランク	ホテル名	場 所	客室料金	其 の 他
1	上 級	インタコンチ ネタル	ジャバラ・アムマン 第3サークル近傍	シングル・ルーム 30ドル以上/日	客室150室 プール設備有り TEL-41361
2	上 級	グランド・ パレス	アブタビ通り	同 上	大規模 TEL-61121
3	中 級	フィラデル フィア	下 町	シングル・ルーム 15ドル以上/日	中規模 プール設備有り TEL-25191
4	中 級	シティ	ジャバラ・アムマン 第3サークル近傍	ダブル・ルーム 20ドル以上/日	小規模 TEL-42251
5	中 級	グランド	ジャバラ・アムマン 第1サークル近傍	同 上	小規模 TEL-38031
6	中 級	シェファード	ジャバラ・アムマン 第2サークル近傍	同 上	小規模 TEL-39197

客室料金に10%のサービス料を加算したのが支払額となる。尚、最近は客室料金に朝食代を含めるホテルが増えてきている。市水道の給水状況が、夏期(4月~10月)は特に悪化するの
で、湯水は利用出来る時に利用する心掛けが必要である。上表、No.1~2以外のホテルでは、飲料水の客室サービスがないから、市販のミネラルウォーターを準備しておくが良い。

グラナダホテルに、数名の国連派遣専門家が長期滞在しているが、月間の客室料金は朝食込み150デナール(13万5千円)、サービス料を加えると、165デナールとなる。

ジャバラ・アムマン通りは、官公庁、外国公館、高級住宅が多く、街路樹も豊かで清潔な環境下にある。アブダリ通りは、現在のところ市の郊外と云った感じで、隣接して王立劇場が建設中であり、更にその隣りには、キング・フセイン・スポーツ・シティがオープンしている。

下町は、商業の中心地で、買物等には便利であるが、やや不潔な感じがする。また、盆地内にあるため、夏期はジャバラ・アムマン通りに較べると暑い。(ジャバラの意は、山又は丘である。ジャバラ・アムマン通りは海拔が約800m)

(三) 什器・備品

ヨルダンで製産しているものは殆んどなく、欧米の各種製品がスーパーマーケット等で多数販売されている。価格は日本より若干安いように感じた。御飯茶碗、味噌汁碗、箸等の和風食器類は現地で入手することは出来ない。また、おろし器、マナイタ、タワシ等も携行されることをおすすめする。

家具付住宅の場合には、生活上必要な什器、備品は全て備付けられているのが普通で、食器類は1ダース単位で揃えられている。但し、加入電話器は現地通信事情から、設置されているケースは少ない。現在、国借款による電話網拡充整備計画が進行中であるし、また居住地域によっては、割と容易に架設される例があるので、専門家所属先のMINISTER、あるいは

DIRECTOR GENERALのレターを添えた新設申込をトライしてみることをおすすめする。電話器架設料は3.4デナール(3万円余)である。帰国時には、電話器をかなり高額(1.0万円程度)で売却することが出来る。

家具無しの住宅を借りた場合には、冷蔵庫、洗濯機、ガスレンジ、ベッド、食卓、応接セット、テレビジョンセット、什器に至るまでのすべてを準備することとなる。参考までに市内販売価格の一例をあげておく。

品名	規格	価 格
電 気 冷 蔵 庫	12立方フィート	200デナール (18万円)
同 上	9立方フィート	150デナール (13万5千円)
電 気 洗 濯 機	脱 水 機 付	80~300デナール (7万~27万円)
テレビジョン・セット	カラー、26吋	450デナール (40万円)
同 上	白黒、24吋	150デナール (13万5千円)

中古品家具を専門に取扱っている店が数軒あるので、これを利用するのも得策かと思われる。

2. 食 品

(1) 食 料 事 情

① 一般的食料事情

欧米人が主に居住しているジャバラ・アムマン、シメサーニ、ジャバラ・ウェブディの各地区には、スーパーマーケットがあり、洋食の原料は大抵のものが入手できるが、その殆んどは輸入品である。現地生産の羊、豚、魚類は、すべて加工食品と云うことになる。唯一つの例外として、ジャバラ・ウェブディの肉店が、牛肉を毎週水曜日に販売している。米は、エジプト米（農林1号の改良品種）、イタリア米が輸入されている。エジプト米は農林1号の改良品種で、美味であるが、小石がかなり混入している。当地で売られている野菜類は、キャベツ、ホーレン草、しゃくしな、はつかだいこん、カリフラワー、パセリ、三寸人参、アスパラガス、こんにゃく、たまねぎ、ねぎ、おおなす、ピーマン、馬鈴薯、トマト、きゅうり、西洋かぼちゃ、さつまいも、やつがしらに似たいも、オクラ、そらまめ、いんげんまめ等である。白菜、大根、ごぼう、とろろいも等はない。果物類では、びわ、すもも、もも、さくらんぼ、りんご、ぶどう、なし、かき、くり、バナナ、すいか、うり、みかん、ネーブル・オレンジ、レモン、いちぢく等が売られている。特にオリーブは豊富で、塩漬けのものは酒のつまみに良くあう。下町の食料品店に、鯛に似た魚やイカの冷凍物が入荷する場合がある。ヨルダン国内には畑が少ないので、青果物はシリア、ヨルダン川西岸地区からの輸入品と思われる。

② 日本食品の入手状況

醤油は米国および中国製のものが輸入されているが、味が日本人向きではない。したがって、味噌、醤油、ソース、そば、うどん、各種の和風調味料は、すべて赴任の際に輸送しておく必要がある。日本食品を数回、航空小包郵便で送って貰ったが、この程度では関税免除になるようであった。

③ 水

この国は、北部地方を除くと極めて降雨量が少なく、また地下水も豊富ではないので、節水には十分な配慮が必要である。一般に、各世帯単位で屋上に貯水槽（通常1トン）が設置されており、これから各室に配管されている。貯水槽への補給は、水洗トイレと全く同じ仕組みで、水位が下がれば、水道から給水される。しかし、水道は数日間隔で給水されるのが普通であるから、調理、水洗トイレを優先とし、貯水量に余裕のある時、あるいは水道の給水中に洗濯、入浴と云うことになる（台所には必ず1カ所、水道に直結した蛇口が設けられているので、給水の有無は簡単に確かめられる。）。水道料金は従量制で、2カ月単位で請求、集金に来る。私は単身赴任であったので、1カ月の水道料金は600フィルス（540円）であった。帯同する家族が多い場合には、貯水槽を増設する必要がある。容積1トンのタンクで、工事費を含め30デナール程度である。水道とは別に、トン当たり2デナール（1800円）程度で水を買うことが出来るが、貯水槽を増設したほうが経済的であろう。水道の水質はカルシウム分が多く、また伝染病の恐れが無いわけではないから、

生水は飲まないのが賢明である。煮沸、沈澱、濾過の方法で飲料水を造るか、あるいは、市販の外国産ミネラル・ウォーターを飲用することになる。

④ 燃 料

炊事用にはブタン・ガス、暖房用は石油が一般に使用される。ガスボンベ（現地ではシリンダーと云っている）の価格は、1.0kg容器が1.0デナール（9,000円）、ガス充填料は1.3デナール（1,170円）であった。家具付住宅の場合には、ガスボンベが2本設置されるのが普通である。最近建築される賃貸住宅は、殆んど集中暖房システムを採用しており、快適な生活を楽しむことが出来る。石油料金は1,000ℓ以上であれば、1ℓ当たり15フィルス（135円）でタンク車が補給に来てくれるが、それ以下の場合には、馬車引きの油屋から1ℓ当たり20フィルス（18円）で購入しなければならない。昭和51年初冬、石油精製会社の運転手が多量に退職したため、深刻な石油不足に見舞われたが、ガス、石油共にある程度余裕をもった用意が必要であろう。

⑤ 調 理 器 具

カマは売っていないので、日本から電気釜を持参されるとよい。刃物類は欧米製品が現地調達出来る。マナ板、おろし器等は日本から持参する必要がある。

⑥ 調 味 料

外国製の調味料であれば、市内のスーパー・マーケットで購入できる。ベイルート動乱以前は、同市にあった日本食品

専門店で、日本製のものが購入でき、大変に便利であった。

⑦ 日本食レストランの有無

日本食レストランは皆無。中華料理店は、昭和51年6月に1軒(ジャババ・アムマン通り第1サークル近傍)、更に昭和52年5月に1軒(シメサーニ)と、現在2軒が開業している。いずれも台湾人経営によるものであるが、めん類は、スパゲッティを使用していて本格的とは云い難い。しかし、其の他のメニューは、まざまずの味であった。外国人の利用度が高く、盛況であるから、ディナーの場合には予約しておくことが必要である。

(ロ) 価 格 (昭和51年6月現在)

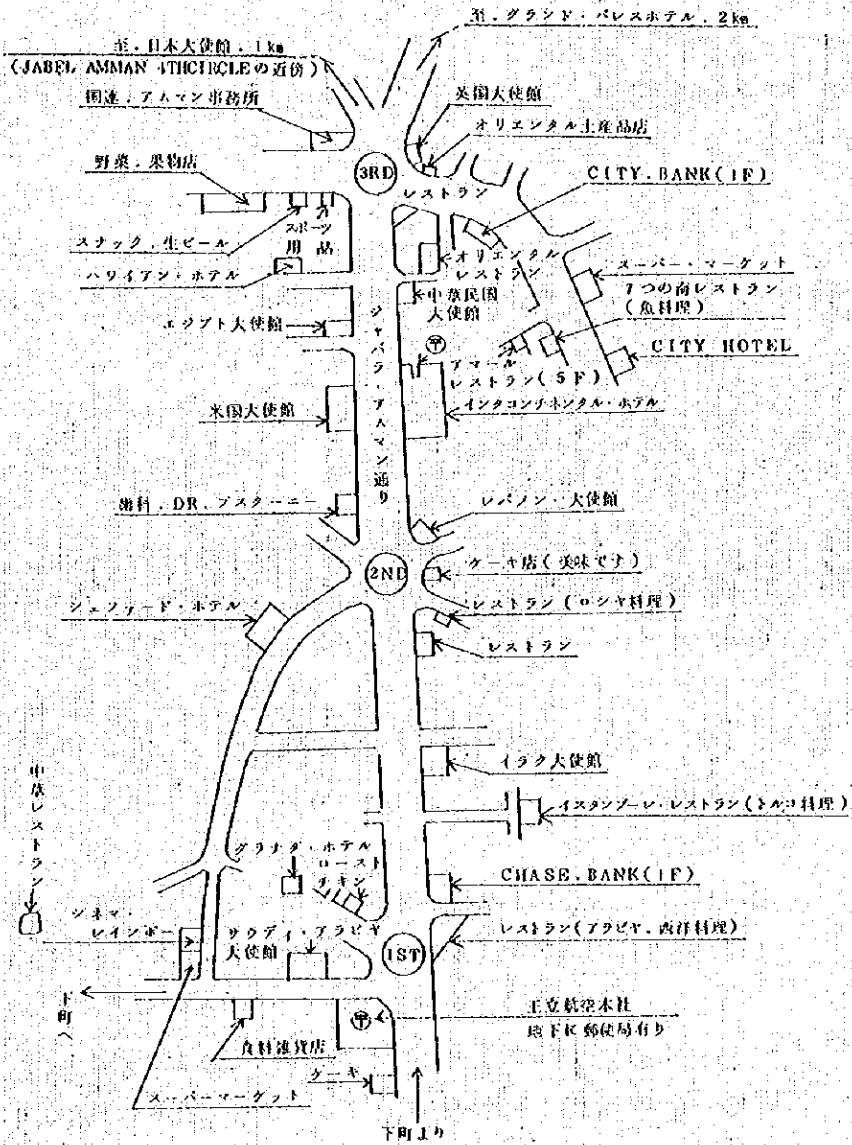
1 JORDAN DINAR = 900.0円

品 名	数 量	価格(デナール)
米(エジプト産)	1kg	0.22(200円)
米(イタリア産)	1kg	0.26(234円)
食パン	1斤	0.15(135円)
コッペパン	5個	0.10(90円)
ハム(ヨーロッパ製)	1kg	2.00(1800円)
鶏卵	1個	0.04(36円)
鮭缶詰	200g入り	0.45(400円)
アンチョビー缶詰	100g入り	0.15(135円)
即席カレー(イギリス製)	1人前	0.40(360円)
ヨーロッパ製の肉・魚の缶詰は、スーパー・マーケットで多数販売されている。価格は、日本より高いようである。		
チーズ(ヨーロッパ産)	半ポンド	0.35(315円)

バター(ヨーロッパ産)	半ポンド	0.35(315円)
レモン	1kg	0.15(135円)
野菜、果物類の価格は、日本と同程度。 レモンは国内産出量が多く、低産である。		
砂糖	1kg	0.20(180円)
タバコ(現地産)	20本入り	0.09~0.155 (80円~140円)
洋酒(ジョニーウォーカー赤)	レギュラーサイズ	2.00(1,800円)
洋酒(ジョニーウォーカー黒)	レギュラーサイズ	3.00(2,700円)
洋酒(オールドバー)	レギュラーサイズ	3.00(2,700円)
ビール(ワムステル及びハイネカー) 大瓶		0.23(207円)
瓶代(0.07デナール)を含んだ価格である。次回からは、瓶を持参すれば、瓶代を差引いてくれる。コーラー、セブントップ等も同様。		
ブドウ酒(現地産)	レギュラーサイズ	0.40~0.70 (360円~630円)
ブランデー(現地産)	レギュラーサイズ	0.50~1.00 (450円~900円)
ミネラルウォーター(シリア産)	1ℓ	0.15(135円)
ミネラルウォーター(フランス産)	1ℓ	0.30(270円)

(c) 外 食

ホテルにおける食事は、アラビヤ料理が一般的であるが、インターコンチネンタル及びグランドパレスホテルは、西欧人の利用度が高いため西洋料理も用意している。料金はホテルによって異なるが、一応の日安としては、朝食が5.00フィルス(450円)~1デナール(900円)、夕食は1.2デナール



JEBEL AMMAN 通9 1ST~3RD CIRCLE

(1,080円)～2.5デナール(2,250円)程度である。ホテル内での食事は、一般に割高であるから、市内のレストランを利用するほうが経済的である。外国人に適するレストランの殆んどは、ジャバラ・アスマン通りに集中している。(付図参照)ラマザン(断食月)期間中は、レストランではアルコール飲料の提供が一切中止される。チップは支払金額の5%程度を渡せば良いが、最近は請求書にサービス料として記入されている場合が増えている。

(三) 携行すべき調味料等

現地では入手出来ない、味噌、醤油、味の素、粉わさび、粉しょうが、けずりぶし(バック入り)、のり、わかめ、こんぶ、日本茶等は、着任時に携行したほうが良い。紅茶、コーヒーの類は、スーパーマーケットで西欧物が多数販売されている。育児用の粉乳等も現地で入手できる。

3. 衣類及び日用品

(イ) 衣料事情

① 一般的衣料事情(特に不足の品)

衣料品は割に豊富であるが、現在のところ、ヨルダン製品はなく、市場に出廻っているものは、シリア、レバノン製品が多く、高級品はヨーロッパ製である。英国製服地は日本に比して遙かに安く、銘柄にもよるが、仕立て上がり1着30デナール(27,000円)程度からある。ただし、仕立が悪く縫製が粗雑である。シリア製服地であれば、上下背広(既

製服)が10デナール(9,000円)位で購入できる。既製服は男女共にそうであるが、一般にサイズが大きく、日本人に合うものを見つけるのは難しい。Yシャツは仕立品で3デナール(2,700円)程度である。フランス製のセーター(合成繊維品)が8デナール(7,200円)であったが、日本でのバーゲンセールであれば3,000円程度のものであった。カルダンのネクタイが8デナール(7,200円)程度である。革靴はシリア製品が多数輸入されていて、4デナール(3,600円)程度から、イタリア製品は20デナール(18,000円)程度以上である。

○運動靴は殆んど中国製品が市場を占拠している。

○テニスシューズ(大人用)が2デナール(1,800円)であった。ステテコの類は販賣されていないので、日本から持参する必要がある。

② 必要とする衣類(気候、公式、普段等の別による衣料生活)

アンマンにおける衣料計画の一助として、年間気温を別表に纏めたので参考とされたい。現地人の服装は、一般には西欧化されていて、民族衣裳の着用は男女共に少ない。結婚式等への参列も男性は通常の背広姿、女性も殆んどは西欧風スタイルであるが、男性に較べると豪華に着飾っている。キングの招宴等をテレビニュースで見ても、参加者は背広か民族衣裳であることから、フォーマルな服装を特に用意することは不必要と思う。黒か紺系統の背広とネクタイの合せ方で充分であろう。女性の場合には、和服を用意されたほうが良いよ

うに考えるが、あまり固執する必要はないようである。先般、皇太子並びに皇太子妃がヨルダンを公式訪問された際、空港出迎え時は洋装、レセプション出席時には、礼を失することのない服装と云うことで、特に和装の指定はなかった。一般生活面から見ると、男性の場合には、夏服及び合服に、スプリングコート（又はレインコート）を用意し、あとは肌着の調節で年間を過ごすことが出来る。

③ 携帯すべきもの

セーター、Yシャツ、ポロシャツ、スプリングコート、肌着、靴下、ネクタイ、革靴、タオル、海水パンツ等。尚、携帯用洋傘は、現在のところ、現地では入手出来ないで、日本から持参すると良い。雨靴は、殆どどの道路が舗装されているので、不必要である。

(ロ) 日用品、特に高価なもの、又は入手困難なもの

ハンカチーフ、服帯、マスクの類、女性用生理用品は、日本から持参されたほうが良い。特に高価なものはなく、現地で殆どものは揃うが、片刈数、両刈数方限紙等の文房具、荷造り用のガムテープ（布製）、ポリ袋は現地で入手出来ない。

4. 使 用 人

コック、召使などを斡旋する所はなく、専ら知人の紹介に頼るしかない。時折りコック希望者の来訪があったが、一般に服装は、我々から見ると不潔であり、言語、習慣、料理方等の違いなどもあるので、上手に使うことは難しいように思われる。現地人の上

流階級家庭に多数出入りしたが、コックや召使を備っているケースはあまり多くはない。自宅でのパーティ等には、レストランからの仕出しを利用すれば良く、専門のコックを備うこともないであろう。ヨルダンに慢性的水不足の国であるから、室内掃除や洗濯等は最低限に抑える必要がある。室内掃除は労力を要するので、この時だけ、臨時に掃除人を備うことをすすめる。掃除の周期は、乾期々間中が3～4週間に1回、雨期々間中は2週間に1回程度で充分である。掃除人の仕事範囲は、床の水洗い、じゅうたんの清掃、窓ガラス清掃等で、27坪程度の家で1日あれば充分で、日当は1.5デナール(1,350円)程度、他に昼食代として、0.2デナール(180円)程度を別に与えれば良い。知人の紹介による場合は別として、奥様独り在宅の時には、掃除させることを避け、また掃除中は目を離さぬことが必要である。通信公社の工業高等学校新卒者給与は、月額30デナール(27,000円)程度であるから、召使等を備う際にはこの金額を目安に交渉するとよい。アムマンにおける一般住宅は、樹木が極端に少ないので、庭師の必要はなく、また治安状態が良いためか、一般住宅に守衛を備うような習慣はない。台所の塵芥回収は、安息日(金曜日)を除き、毎朝7時～8時頃に回収人が来るので、ポリバケツとか袋に入れて玄関口に出して置けばよい。尚、ポリ袋は、現地で入手出来ないので、日本から持参すると良い。謝礼は、月末の回収時に1デナール(900円)程度渡せばよい。

5. 医 療

(イ) 医療事情

① 医療施設

アムマン市には、いくつかの大きな病院があるが、設備的に見て総合大病院と云えるのは、キング・フセイン・メデカル・シティ及びヨルダン大学医学部付属病院（旧称アムマン病院）の2つであろう。両病院共に見学したが、近代的医療設備が完備しており、完全看護システムが導入されている。但し、前者は、軍人及び其の家族が治療の対象であって、一般には開放されていない。医療技術レベルの程度については定かでないが、上流階級は、大手術の際にはカイロ大学付属病院で行っているのが実情である。歯科治療で、数回個人開業医の厄介になったが、技術レベルは日本と同等に感じた。尚、治療は予約方式が採用されている。

② 日本人医師の有無

日本人医師はいない。

③ 出産の安全性

勤務先での新婚者が病院で多数出産していたが、トラブルを聴いたことがないので、安心出来るものと思われる。尚、帝王切開をしたケースがあったが、特に問題はないようであった。

(ロ) 医薬品

完全な医薬分業が確立されているので、医師の処方箋を薬局に持参して薬を手に入れることになる。薬局は深夜営業を当番制かと思われるが行っている。処方箋がなくても、薬を買いと

とはできる。市販している医薬品はヨーロッパ製が多いが、治療効果の点は日本製品のほうが優れていると感じた。

痛み止め、傷薬、消化剤、下痢止め、駆虫薬、目薬、風邪薬、抗生物質、応急処置用の材料、眼帯、マスク等は、日本から持参したほうがよい。

(イ) 疾病の種類

① 風土病的なもの

国連WHO派遣の板田教夫博士(50.10～51.8滞在)によると、特に風土病と云ったものはないが、飲料水の関係からか結石患者が多いと云うことであった。また、昭和51年始めに、SALT市の上水道に下水が混入し、多数の下痢患者が発生、後遺症として手足の痺れを訴えていると同博士が話していた。風土病ではないが、レストランで野菜サラダを喰べると必ず下痢をしたが、水不足のため、調理や食器の洗浄が不十分のためと思われる。

② 特に予防注射しておくべきもの

種痘。尚、南廻わりで行くケースが多いので、コレラの予防注射が義務付けられている。

(ロ) 健康管理上の注意事項

- a 市水道はカルシウム含有度が高く、また混濁しているの
で、このままで飲料にするのはどうかと思う。煮沸後、カー
セ等で濾して長時間放置し、上澄みを飲用すると良い。私は、
ミネラルウォーターを飲用していた。
- b 昼夜の気温差が大きいので、夜の冷え込みには注意するこ

と。

- e 定期的な寄生虫検査と駆除。
- d 風俗、習慣の違いから、対人関係で強くストレスを受けるので、成るべく早く親しい友人を持つことが望ましい。

6. 子弟の教育機関

(イ) 教育制度の概要と教育機関

小、中学校の9年間は義務教育制度であり、授業料はない。但し、私立校は別で、授業料と其の他の経費が要る。幼稚園は、私立のみのようである。高等学校は日本と同様、普通高校と職業高校に区別されていて、修業年限は3年間である。

大学は国立のヨルダン大学の他、数校がある。私立大学はない。修業年限は、医学部が7年間、工学系学部が6年間、其の他の学部は5年間となっている。

学年は9月から始まり、翌年5月末で終了するが、これは小学校から大学まで共通である。

高校卒業者の大学入学資格取得試験結果は、6月初旬、新聞紙上に発表されるが、合格者の成績に従って、大学(アラビヤ圏内諸国の)と学部が指定される。

大学では、男女共学であるが、高校までは男女別で、これは校舎、教師、生徒の全てを含めた区別の仕方で、大変に徹底している。国立小学校の規模は一般に小さいが、校数は多い。

英語教育は、国立小学校では5年生、ミッションスクールは3年生から始められている。

(ロ) 通常専門家の子弟が利用している教育機関の実例（日本人学校の有無、国際学校の利用等）

現在、アムマンに在る専門家で現地の学校へ通学させているケースはなく、大使館、商社等の駐在員及び欧米人の駐在員の例では、全て私立の国際学校へ通っている。

アムマン市にある国際学校は、AMERICAN COMMUNITY SCHOOL 及び BRITISH SCHOOL の2校で、前者はUSA本国と同様のカリキュラムで授業が行われている。最終学年は現在のところ第9学年までである。

(ハ) 授業料

AMERICAN COMMUNITY SCHOOL の場合には、年間学費（教科書等一切込み）は各学年共通で、1,500 USドル（昭和51年9月からの新学期から2,000 USドルに改訂される見込み）、スクールバス代が60 USドルである。尚、学費等は年2回に分けて納入する。

(ニ) 通学方法（送迎・スクールバスの便等）

自家用車による送迎と、スクールバスを利用している。

7. 娯楽設備

(イ) 保養地、ゴルフ、ポーリング、映画等

ゴルフ場はない。保養地と云ったものはないが、強いてあげるとすれば、アカバ湾に臨むアカバ市位のものである。アカバ市は最南端に位置し、冬期々間中에서도水泳が出来ると云われている。

る。

ボーリング場は、アムマン空港の近くに1カ所ある。レーン数は4レーンである。

映画館は、アムマン市内に10数館あるが、昭和50年秋、ジャバラ・アムマン第1サークルにオープンしたシネマ・レインボーが最も豪華であり推奨できる。同館は欧米のフィルムを主として上映しており、フィルムの入れ替えは1週間毎である。入場料は大人が600フィルス(540円)、子供は半額であるが、金曜日の午前中のみは、夫々半額料金で入場出来る。

アムマン市内には、あまり多くはないが酒場がある。内3軒はホステス(殆んどエジプト人)がいるので、アルコール代は高くつくが、ともかく女性と話をすることが出来る。但し、客席サービスは法律で禁止されているので、カウンター越しの会話のみである。また、これ等3軒の店の内、2軒で女性の踊りを観賞できるが、小学校の学芸会と云った幼稚なものである。踊りのみの観賞であれば、ビール(小瓶)1.2デナール

(1,080円)程度で済む。

(四) 通常の余暇の過ごし方

家庭訪問、遺跡探検、映画、スポーツと云ったところが通常であるが、3月~4月にかけて、サルト市(アムマン市から、29km)郊外は、色とりどりの野草が一度に咲き出し、誠に見事であるから、この期間は毎金曜日ピクニックされることを奨める。

(七) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無、料金

ペイルート動乱後、日本商社がアママン市にも避難したため、昭和51年6月現在の在留邦人数は50名近くとなり、日本人会が発足した。しかし、現在のところ日本人クラブはない。

家族と共に、スポーツを楽しむと云えば、プールでの水泳か、テニスと云ったところである。プール設備は、インタコンチネンタル及びフィラデルフィアの両ホテル、エンジニアリング・ソサィティ、キング・フセイン・スポーツ・シティにある。

プールの利用料は、フィラデルフィア・ホテルが1日5.00フィルス(450円)、但し宿泊客は無料。エンジニアリング・ソサィティが1デナール(900円)である。

キング・フセイン・スポーツ・シティは会員制度をとっており、年間会費は20デナール(18,000円)である。室内外のスポーツ設備が完備されているが、とりわけ室内温水プールは、非常に豪華である。

テニスは、上記スポーツ・シティの他に、ジャブラ・アママン第3サークルにあるYMCAのコートが利用出来る。

(二) ラジオ及びテレビジョン放送・料金

ヨルダン国営テレビジョン公社が、PAL方式(6.25本、5.0Hz)でカラー放送を行っている。CH-3及び6の2チャンネルを使用しているが、放送番組は殆んど同一である。英語によるニュースは、CH-6で行われている。放送時間は、土曜日～木曜日までが午後6時から深夜まで、金曜日は正午から深夜までとなっている。

ラジオ放送は、国内向けが中波及び超短波(VHF)で行わ

れている。超短波はFM放送で外国音楽が主体である。また、中波は2波使用されているが、内1波は音楽と英語ニュースを流している。

年間のテレビ視聴料金は、ラジオを含み6デナール(5,400円)である。

8. 電 力

交流220ボルト、50ヘルツで供給されている。停電頻度が高いので、冷蔵庫内の保存食品の保管には注意が必要である。プラグは日本と異なっていて、多少ピンの間隔が広い。最近の建築住宅は、3ピン型のコンセントが使用されている。日本製のラジオ、テープレコーダーでも、中近東向けのものは、電圧切替を内蔵しているし、また、プラグも付加されているので、購入時には注意すること。

電気料金は、従量制で、月始めに請求書が各戸に配布される。請求書はアラビア語でタイプされているので、アラビア数字だけでも読めるようにしておくと便利である。料金の支払いは、下町にある営業所で扱っている。電力料金は、80KWHで2デナール(1,800円)程度である。

9. 交 通

(イ) 交 通 事 情

① 一般交通機関の発達度と種類

鉄道は、アムマン～アカバ間を運行しているが、現在は貨

物専用となっている。

国内航空は、アムマン～アカバ間のみで、ジェット機が運行している。距離は300km余で料金は6デナール(5,400円)である。

主要交通機関は、相乗りタクシーが圧倒的で、次いでバスが多い。近隣諸国への交通機関は、全て航空機に頼らねばならないが、最近、アムマン～ダマスカス間を長距離バスが運行するようになった。

アムマン空港は、田舎の停車場と云った感じの極く小さい空港で、市内までタクシーで1デナール(900円)程度、時間にして20分程度である。新国際空港をアムマン市の南方30kmの場所に建設中である。

② 道路事情(舗装状況等)

主要都市間の幹線道路は、全て舗装されている。一部は片側二車線の箇所もある。また、各市内の道路も殆んど舗装されている。

雨期々間中は、アムマン市郊外及び北方地域に積雪を見るが、除雪作業は殆んどしないので、短期間ではあるが交通機関がストップすることもある。

③ 特に注意すべき交通法規

右側通行の他特になし。自動車は最近非常に増加しているが、車相互の衝突事故は比較的少なく、老朽車を使用している相乗りタクシー自体の機械的障害が目立つ程度である。

交通信号は殆んど普及していないので、通行人の道路横断

は随意に行われており、また、動作も緩慢であるから、走行時は特に左右の注意が必要である。飲酒運転の取締りは行われていないようである。最近、駐車禁止区域が増えて来たので、この点の注意が必要である。

郊外に出る際は、パスポートも忘れずに携帯すること。検閲が随所で行われている。

④ 交通事故の取扱い

事故の状況によっては、リンチされることが考えられる。対日感情は良いが、中国人が韓国人に必ず見送られるので、先ず、日本人である旨を野字馬に宣言し、速刻、警察、軍隊に連絡を依頼すること。(現地人同志の場合、リンチのトラブルを時折り見かけた。)次いで、現地大使館及び勤務先の上司に連絡して、面倒を見て頂くのが最善であろう。事故の解決は示談によるものが多いと聞いているが、現地人が加害者の場合には、支払い能力の面で余り期待できないと思われる。

⑤ 事故補償

対人、対車共に保険制度がある。現地大使館の話では、支払い金額の査定が厳しいと云うことであつたので、現地着任後、大使館員と相談されると良い。

(ii) タクシー、ハイヤーの利用・料金

相乗りタクシー(現地ではセルビスと云われている。SERVICEのフランス語読み)が、定まった走行区間を多数運行しているので、市内の様子にある程度慣れ、また、アラ

ビヤ数字による区間表示が読めるようになれば、便利に利用出来よう。ただし、乗客も自動車も相当に汚れているので、不潔感は免れない。相乗りタクシーの料金は、距離によって多少異なるが、通常は3.5フィルス(31円)である。

市内タクシーが、かなり走っているのに、一般には、タクシーを利用すると良い。料金メーターが付いていないので、料金支払いが、少し面倒である。英語を話せぬ運転手は、殆んどがAS YOU LIKEと返事するので、コインを小刻みに渡すと良い。

タクシー料金の一例は次のとおりである。

- ジャバラ・アムマン第3サークルから日本大使館まで。
300フィルス(270円)
- 同じく、下町まで。
300フィルス(270円)
- 同じく、アムマン空港まで。
1デナール(900円)

相乗りタクシーと一般タクシーの区別は次のようになっている。

フロント・ドア及びタクシー表示灯カバーが、相乗りタクシーは全て白色、一般タクシーは全て黄色である。尚、相乗りタクシーは、他に相客がいなければ、一般タクシーに変更ができる。

タクシー会社がかかりあるので、常雇いのように利用し、顔見知りになることが得策である。尚、法外な料金を請求された

際には、車番号を手帳に記録後、料金を支払い、警察に届ける旨を通知すると、必ず適正料金となる。

国内観光等の場合には、レンタカーを利用するよりも、ハイヤーを利用するほうが割安である。ハイヤー料金の例は次のとおりである。

- アムマンからベトラ遺跡往復(AM 8～PM 5)
10デナール(9,000円)、チップ1デナール(900円)
 - アムマンからベトラ遺跡経由、アカバ港までの往復
(AM 6～PM 11)
20デナール(18,000円)、チップ1デナール(900円)
- 運転手の食事は、心配しないでよい。

(二) レンタカー

レンタカーの取扱いは、インタコンチネンタル・ホテル其他で行っている。

(三) 自動車購入

① 購入法、融資法

外人に対する融資制度はないと思われる。免税特権で輸入する場合、ヨルダン到着の日から6カ月以内に輸入申請をする必要がある。申請手続は、派遣先経由でヨルダン外務省に行うが、最も目数がかかるのは、ヨルダン大蔵省のようである。最近、日本人専門家が車を購入したが、手続から入手まで7カ月を費している。購入車種は、トヨタ・カローラ、1,200cc、イドア、カーラジオ付、手数料等一切の費用を含み1,200デナール(1,080,000円)であった。

② 免税輸入特権について

前述のとおり。如何なる車種も購入できるが、日本製であれば、トヨタ、いすゞ、ホンダ等が多数進出しているので、この中から選ぶと保守上便利であろう。尚、輸入手続は、派遣先の有力な上司と同行の上、持廻りをすれば10日程度で済むと思われる。

③ 帰国時の売却方法

外人に売却するのが、一番手軽である。ヨルダン人にも売却できるが、税金面で少し煩さいようである。

(B) 運 転 免 許

① 国際免許証の有効性

前出の日本人専門家が自動車輸入手続時に、ヨルダンの運転免許証の取得を要求されたことや、レンタカー借用申込時に国際免許証で所われた事例があるので、国際免許証は有効でないように思われる。

② 免許取得の方法・経費

居住と身分証明書及び国際免許証を持参し、陸運事務所の試験を受ける。視力テストのみである。経費については、皆さんのように思われるので専門家の派遣先職員(出来れば庶務担当者)帯同で試験を受けることを契める。(前出の日本人専門家は、最初30デナールを請求されたので、交渉したところ、18デナールに値下げした由であった。)

(C) ガソリン代

スーパー(ハイオクタン価)が1ℓ65フィルス(52円)、

レギュラーは1050フィルス(40円)である。但し、スーパーを販売している店は少ない。

10. 為 替

(イ) 相 場

公定レートのみである。両替は、銀行、下町に集中した両替店及びホテルで出来るが、ホテルは手数料の関係からか、交換レートがかなり下廻っているので、多額の交換はホテルでは行わぬこと。

◎売相場(昭和51年6月15日現在)

1 US\$ = 0.33 JORDAN DINAR (298円)

但し、旅行小切手の場合には、交換レートが若干下廻る。

◎買相場(昭和51年6月15日現在)

1 US\$ = 0.334 JORDAN DINAR

ヨルダンにおける通貨単位は、JORDAN DINAR (略称 J. D.) 及び FILS の2通りである。

○通貨発行単位は次のとおりである。

10 J. D.、5 J. D.、1 J. D.、0.5 J. D.

以上は全て紙幣である。FILS は全て硬貨で、次の7種類が発行されている。

250、100、50、25、20、10、5。

(ロ) 対 日 送 金

日本人専門家は、US\$ で送金されてくるので、日本宛の送金は比較的簡単である。アラビヤ語で書かれた送金許可書に必

要事項を記入しなければならぬが、INFORMATION DESK に尋ねれば、助力してくれる。私は全て電信送金をしてきたが、2000 US\$ で手数料が0.5 J.D、電信料が4.5 J.D であった。2日間で日本の指定銀行に到着している。

(c) 滞在費の受取方法、日本からの送金先、現地通貨での引出方法

従来、現地銀行宛に US\$ で送金されても、現金引出しは全て現地通貨一本やりであったが、昭和50年11月に制度が改訂されたので、現在は US\$ で現金を受取ることが出来る。

アムマン市には米国資本系の CITY BANK (旧称 FIRST NATIONAL CITY BANK) 及び CHASE BANK (旧称、CHASE MANHATTAN BANK) の2銀行がオープンしている。最近、ジャバラ・アムマン第3サークルに CITY BANK の支店がオープンしたが、下町は駐車が困難であるからこの支店を利用するとよい。

銀行口座の種類は、SAVING ACCOUNT と CURRENT ACCOUNT の2種類がある。口座開設時に若干の預金を必要とする。

尚、SAVING ACCOUNT は、預金額に対して若干の利息がつく。

私は CURRENT ACCOUNT で口座を開設したが、当時は 20 US\$ を預金すればオープン出来たのが、昭和51年6月現在では 300 US\$ 以上の預金が必要とされている。

BALANCE SHEET は毎月々初めに郵送して来る。

国際協力事業団からの送金が到着すると、電話連絡があると同時に、通知状が郵送されてくる。若し、通知がなかったら銀行の TRANSFER SECTION に問合せてみる。但し、本人が問合せないと金額等は回答しない。

口座からの預金引出しは、CURRENT ACCOUNT が銀行小切手、SAVING ACCOUNT は所定用紙に記入すればよく、簡単である。口座設定時に指定した通貨支払単位 (US\$ 建または J.D 建) に従って、現金の支払いが行われる。

口座を廃止する際は、廃止届と共に、使い残りの小切手帳または預金通帳を提出しなければならない。廃止届の様式はフリーで、単に廃止する理由を記入し、サインをすればよい。

銀行の営業時間は、08:30 ~ 12:30 までである。

11. 出入国管理

(イ) 税関検査

① 一般事情

入国時における税関検査は、日本と同様であるが、出国時検査は厳しく、小物袋の中までも徹底した検査が行われる。

ヨルダンにおける出国時の作業の流れは、他のアラビヤ諸国と較べても、少々異なっているので、簡単に流れを説明しておく。

a. 警官によるボディ・チェック、女性パッセンジャーは、別室で女性警官が行う。

- b 税関吏による携帯品全てのチェック。aと同様、女性パ
ッセンジャーは別に行われる。
 - e bが完了後、所定の航空カウンターで搭乗券を示し、機
内持込品以外のトランク等も預ける。
 - d 出国検査官室の手前に、出国記録カードがあるので、所
定欄を記入し提出する。出国税は1デナール(900円)
である。
 - c 金属探知器によるボディ・チェック。このチェックが済
むと待合室に入室出来る。
 - f 搭乗時間が来て送迎バスに乗り込む前に、簡単なボディ
・チェックが行われる。
- 尚、入出国時、空港ポーターに対するチップは、荷物1ヶ
当たり100フィリス(90円)が相場である。

② 持込禁止品

日本と同様、武器、麻薬、ポルノの類。

③ 入国に際しての注意事項

テレビ、テープレコーダー、ラジオ等の持込品は、市内価
格が高額のためか、入国時にパスポートに記録される。しか
し、出国時に現物と照合することは実施されていないよう
である。アルコール類は、レギュラーサイズ瓶が1本、クバコ
1カードンが無税で持ち込める。アルコール類は、TAX
FREE 価格の50%増し程度で自由に買えるので、無理し
て多量に持ち込むことはない。但し、日本酒ならば別である
が。

専門家の携行機材は、通関に1カ月程度かゝるのが普通である。専門家の現地所属先の機関に通関手続を一任すればよい。

④ 持出禁止品

遺跡等からの出土品。

(ii) 外人登録の有無

専門家は公用パスポートなので、外人登録は不要であるが、民間人の場合、長期滞在時は登録することが必要である。

(iii) ビザの更新手続

在日ヨルダン大使館が発行するビザは、6カ月間であるから、長期派遣の専門家は現地でビザの更新手続が必要である。所属先の機関がこの手続をしてくれるので、パスポートに写真2枚を添えて、ビザの切れる3週間位前に依頼すること。通常1年間のビザが発行される。

1.2 便宜供与

(i) 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

政府間交渉に基づくものであるから、ケースバイケースであろうが、現在のところ無し。

② 出張旅費、公用車の提供、ガソリンの支給の有無

出張旅費はA-1フォームに従って支給される。公用車も同様であるが、毎日の出勤に車がなくては非常に不便である。若し、個人の車を通勤等に使用するのであれば、ガソリン支

給を交渉してみるとよい。

③ その他（住宅提供、現物供与等）

住宅、現物の供与は一切ない。

(a) カウンターパート、通訳

カウンターパートは、A-1フォーム提出時に決まってしまうものであるが、階級制の厳しい国であるから、高いポジションの者がカウンターパートであると、色々と好都合なことが多い。私の場合、衛星通信地球局の所長がカウンターパートであり、且つ本人の人柄が非常に良かったため、公私の生活面で非常に恵まれた。

英語が普及しているので、一般には通訳の必要はない。

(c) 免 税 特 権

A-1フォームに記載されているものは、免税で購入できる。

1.3 通信・運輸

(i) 郵 便 事 情

① 安全性、配達システム

郵便物の扱取りは、郵便物の内容により行われているようで、日本から送られたカレンダーとか手帳等は、半分位紛失するのが普通であった。重要な内容のものは書留便にすることが必要である。検閲のためであろう、封筒をゼロテープで封することが禁じられている。日本からの週刊誌も、ボルノまがいのグラビヤ写真は切りとられて配達される。

郵便の各戸配達も行われているが、確実なのはP.O. BOX

を利用することである。P.O. BOXの年間使用料は、2デナール（1,800円）であるが、勤務先のP.O. BOXを利用することを奨める。

郵便局の営業時間は、土曜日～木曜日が、8 AM～6 PM、金曜日は、8 AM～12 AM までである。

国内外向けの書留便は、一般の郵便局で取扱うが、国内外から送られてくる書留便の受領は、下町にある書留便配布専用局で行われる。書留便到着通知状とパスポートを同局に持参すればよいが、若し、代理人による受領の場合には、通知状に英文で代理人に渡して欲しい旨を記入し、署名する必要がある。書留便配布専用局の営業時間は、土曜日～木曜日が、8 AM～2 PM までで、金曜日は休みである。

日本向けの通常航空郵便料は、封書（20グラム）7.5フィリス（67.5円）、葉書が6.5フィリス（58.5円）である。

小包郵便物の発送及び配布を専門に取扱う郵便局が、中央郵便局の裏手にある。航空便、船便のいずれも取扱うが、ペイルート動乱以来、日本向けの船便扱いは停止中である。

日本からの食料品等は、品抜きされたことはなかったが、下着等は抜取られることがある。

小包の発送方法は、荷造りをしないで局に持ち込み、警官による内容物検査終了後梱包し、次ぎに計量、料金支払いの順序となる。現地では、布製のガムテープは入手不可能であるから、適当数を日本から持参すること。

日本宛の航空小包郵便料金は次のとおり。

1 kgまで、	2,765デナール
3 kgまで、	5,705デナール
5 kgまで、	8,635デナール
10 kgまで、	15,875デナール

航空小包郵便の重量は、最高10kgまで、船便の場合は制限はない。

同局の営業時間は、平日が8AM～2PMまで、金曜日が休みである。

② 電話、電報サービス

国内大都市間は、ダイヤル即時通話方式が採用されている。しかし、既設交換局は小型であるために、各都市共、新規の電話加入は困難である。尚、旧型の交換機が使用されているので、ダイヤルはゆっくりと廻らすこと。公衆電話は、郵便局及びホテルに設置されているのみである。

日本～ヨルダン間の国際電話は、通話申込後、早い時では10分程度、遅くとも2時間位で接続される。通話は非常に明瞭である。国際通話の申込は、郵便局からか、またはダイヤル番号17で行う。

電報発信は各郵便局が取扱っている。日本からの電報は、勤務先機関宛か大使館宛が望ましい。配達までの所要日数は2日程度である。

③ 郵便の日本～現地間の所要日数

AIR MAIL 東京→アマン 8日程度

アムマン→東京 2週間程度

SEA MAIL アムマン→東京 3カ月以上

④ 国内主要都市との連絡

電話、電報、郵便による連絡方法があるが、小さい国であるから、場合によっては直接、自動車で行くほうが早くて確実である。大都市間の電話はダイヤル即時方式が多くなっている。

(ロ) 運 送

① 陸運、海運業者の有無

両方共にある。ヨルダンには木材が極度に少ないので、梱包に木箱等を利用したりすると極度に高くつく。

② 家財送付上の手続宛名

賃貸住宅は家具付のものが多いので、家財をヨルダンに持ち込む必要はあまりないと思う。小さい荷物の場合は、赴任時飛行機の別送荷物（UNACCOMPANIED BAGGAGE、通称アナカンと云う）か、超過荷物（EXCESS）のほうが便利である。アナカンの通関日数は10日以上と考えること。

船便の場合は、住宅が決定するまで、アハカバ港の倉庫保管が適当であろう。

1.4 言 語

(イ) 公用語等の普及度

アラビア語が公用語である。アラビア語は地方語が多く、ヨ

ルダン人の話す言葉も地方語の一つである。英会話の普及度は高いが、読み書きは英会話ほどではない。欧米諸国で働く希望者が多く、英語学校は盛んである。

(ロ) 現地語事前学習の必要性

勤務中はアラビア語の必要性はないが、市民生活面では、アラビア数字の読み方を事前に学んでおくと便利である。

(ハ) 語学学習施設

アムマン市内には、外人向けのアラビア語夜間学校がある。

15. 気 候

国土の大部分は海拔600～900mの高原であり、6～8月の暑期々間においても朝夕の冷涼さは素暗しい。気候は大別して、乾期と雨期に分かれる。乾期は5～10月までで、この間は全く雲を見ることが出来ない。夜空の星は、湿度が低いため瞬くことがなく、情緒に乏しい感じである。昼間の直射日光下は、シリシリした暑さであるが、乾燥が激しいので殆んど汗を見ることはない。日陰や室内に入れば涼しく、冷房装置は殆んど設置されていない。雨期は11～4月までであるが、雨量は平均して少ない。ソリア国境に近い高山地帯の年間総雨量が平均400mm、山峡部で200mmと云われており、慢性的な水不足に悩んでいる。雨期期間中は降雪があり、場所によっては積雪を見る。戸外の寒さはスプリングコートで済ませることが出来る程度である。室内は石造りのためか特に冷え込む感じであり、11月～3月の期間は暖房が必要である。現地における衣料計画の一助として、昭和50

年6月から一年間の月別気温等を纏めた。表からもわかるように、昼夜の寒暖差が激しいので、朝夕の冷え込みには特に注意すること。

(イ) 年間気温（百葉箱による測定）

測定地点は、BAQA 衛星通信地球局（海拔620m）で、同局はアムマン市（平均海拔800m）の北北西、約2.5kmの距離にある。

アムマン市の気温は、木炭と近似である。

年 月	昼 間		夜 間		降雨及び 降雪回数
	最高℃	最低℃	最高℃	最低℃	
昭50. 7	35	27	18	13	
50. 8	35	27	17	11	
50. 9	35	25	16	11	
50. 10	31	19	15	6	
50. 11	25	15	12	5	降雨 1回
50. 12	17	10	7	-1	降雨 6回
51. 1	16	8	5	0	降雨 2回
51. 2	17	5	6	-3	降雨 9回 降雪 2回
51. 3	24	6	15	-5	降雨 4回 降雪 2回
51. 4	33	16	18	2	降雨 5回
51. 5	32	23	18	6	

- 湿度は年間を通じて極端に低く、カラリとしている。
- 平均降雨時間は短い。

16. 治 安

(イ) 一 般 情 勢

秘密警察制度が非常に発達していて、日本で想像しているより遙かに治安は良好である。ただし、現地人は特に名誉を重んじる民族であるから、不幸な事件を招かぬよう、平素から対人関係には留意し、トラブルを避ける心掛けが必要である。

(ロ) 夜間外出上の注意

男性の場合、何の懸念もないが、婦人の夜間外出時は注意が必要である。外国婦人が独りで路傍に立っていると、絶対と云ってよい位に車が停るが、危険であるから利用してはいけない。イスラム教は戒律が厳しいため、現地人同志の男女交際（勿論、現地人女性と外国人男性の交際も）は100%と云ってよい位にないが、その反動のためか、異教徒の外国婦人には積極的にアプローチしてくる。女性が住宅に独りである場合には、外来者とはドア・チェーンを掛けたままで応待すること。絶対室内に入れてはいけない。

(ハ) 緊急時における大使館との連絡方法等

アムマン在住者は、直接大使公邸に集合することになっているが、余裕があれば事前に、大使館に電話連絡するとよい。アムマン以外の居住者は、電話で大使館の指示を仰ぐこと。連絡がとれぬ場合は自身で身の安全を図ることになる。

17. そ の 他

(イ) 対 日 感 情

衣料、時計、家電製品等の日本製品が広く進出しており、日本の工業力と製品に対する評価が高い。現在、工業立国の政策を推進しているが、そのモデルは日本であると一般に云われている。日本政府ベースの各種研修に、かなりの人達が参加して、日本に対する理解が高く、親愛の情を持っている人が多い。昭和49年春、ハシェミット王家のハッサン皇太子が訪日、さらに昭和51年春には、フセイン国王が日本を公式訪問するなど、かなりの親日国と云えよう。尚、同国王の公式訪問に対する答礼として、昭和51年6月に皇太子御夫妻が、ヨルダンを公式訪問されている。

(ii) 一般の風俗・習慣

遊牧を「生業」としているベドウィンは、勿論テント暮らしで、アムマン郊外にも時折り姿を現わす。アムマン市は、7つの丘が寄り集って出来た地理的条件もあって、小さなコンクリート造りの家が、谷から丘へと密集している。しかし、中産階級以上は、家も広く、全く西歐的な生活様式である。生活レベルは、日本のように平均化されておらず、貧富の差は極端である。

アラビヤ特有のスタイルである黒のチャードルで、顔と体をすっぽりと包んだ女性の姿は少ない。民族衣裳を纏っているのは、ベドウィンか下層階級の既婚女性で、若い女性は勿論、年寄りも殆んど洋装である。現在、ジーンズが流行中で、裕を引きずって歩く姿がやたらと目につく。男性は洋服姿が圧倒的で、ハッタ（頭に被ふるズキン、拡げると真四角のテーブルクロスと全く同じで、防寒、防暑、防塵用に有効）を常用しているの

は、ベドウィンか下層階級の労働者である。

コーランによると、女性は家庭内にとどまるものとされているが、現在では社会の各分野に進出している婦人の数はかなり多く、官公庁、銀行等で盛んに活躍している。しかし、喫茶店、料理店等には、絶対的と云ってもよい位に出入りすることはなく、これらの店は男性客ばかりであって、現地人女性の姿を見ることはない。また、宗教上の理由から、年輩者（男女共に）の多くは、カメラを向けられることを大変に嫌がるので、市内での撮影時には、トラブルを避ける意味で注意が必要である。

① 食 習 慣

宗教上の理由で、豚肉やラード等も用いた加工食品は一切喰べない。食肉は羊肉、鶏肉が一般的で、ラクダは下層階級の喰べるものとされている。牛肉も喰べるが、やゝ高価であり一般的でない。

現地人サラリーマンの食事時刻は、朝食を勤務先で10時頃、昼食は14時頃自宅で、夕食は自宅で19時から20時頃と云うのが普通である。

食事は流動物でない限り、手掴みで喰べるのが普通で、食卓の料理等も各自の皿に、手で取り分けてくれるが、清潔好きの日本人にとっては相当な抵抗を感じる。しかし、外国人を家庭に招待する際には、ナイフ、フォーク類を用意するから、遠慮しないで使用するとよい。尚、宗教上の理由で、左手は不浄とされているので、食事の際や物を手渡す時には、必ず右手を使用するよう注意すること。

飲酒は宗教上禁止されているので、戒律を厳しく守る人達は、アルコール類がサービスされるパーティには絶対出席しない。しかし、ビール等を飲む人達が増加しつつあるように感じた。

現地は乾燥地帯であるためか、紅茶とかアラビヤコーヒーを飲用する機会が多い。アラビヤコーヒーは、ぐい呑み程度のコップに少量注いでくれるが、呑み終ったコップをそのまま差し出すと、またコーヒーを注いでくれる。若し、お代りが不必要であれば、握ったコップを多少回転させる感じで、左右に動かしながらサーバントに渡せばよい。アラビヤコーヒーの味は、『ゲンノショウコ』に似ており香りが高い。

現地人の常食する食品で、我々日本人の好みに合うと思われるものは、ホベツ（せんべい状のパン）に添えて喰べるホンモス、フール類（いずれも主原料は大豆で、ペースト状）、モロヘイヤと云う青野菜を刻みこんで作ったポタージュ（海藻をとかした感じで、ねばりがある）、ナス、ウリ、馬鈴薯等に、米、羊肉、ナッツの類を詰めて炊きあげた米料理等であろう。レバン（羊乳から作ったヨーグルト）は非常に多く飲用されていて、料理に混ぜて喰べる場合もある。殆んど臭みはない。

② イスラームの世界

「郷に入れば、郷に従え」と云う古い諺を持ちだすまでもなく、外国で円滑に仕事を進めてゆくためには、其の国の社会の成りたちや、其の仕組み、またこれらを母体にして形成

される社会的習慣や、国民の一般的な性格、気質と云ったようなものを、十分に理解しておくことが大切である。特にマネージメントに類する指導には、絶対欠かすことの出来ないものである。

イスラーム諸国は、生活文化面がキリスト教国家と云った国々とは、大変に事情が異なっているので、我々日本人の生活習慣と、うまく噛み合わないケースが多く、戸惑うことがある。

イスラーム諸国の生活文化の基礎は、放牧民族であることと、イスラーム教にあると思われるので、コーランについて知識を得ておくことが大切である。

現代の我々日本人は、一般には宗教心に乏しい傾向にあるので、神仏について、何のように考え、表現しようと、それは自由であり、それによって周囲から爪弾きを受けるようなことは、まず考えられないと思う。しかし、イスラーム諸国にあっては、この辺の事情が全く異なっている。宗教に対する受け止め方は、大変に堅固であって我々の想像をはるかに超えるものがある。

イスラームの神アッラーは、唯一無二の神として、信仰の対象になっているから、神に対する不用意な発言は、思いもかけぬ結果を招くことになる。まず、宗教批判等の発言は、タブーと心得、厳に慎しむ態度が肝要であろう。

イスラームは、西暦紀元570年頃アラビアのメッカに生れ、632年に亡くなった予言者マホメットによって興され

た宗教で、ヨーロッパではマホメット教と呼ぶこともあり、また中国や日本では回教（かい教）と云っているようである。

最近の日本の新聞紙上において、或る宗教団体と政党との間における問題を報ずる記事の中で、政教分離と云う言葉が時折り目につくが、これは、政治と宗教とは相互に干渉しないと云うことであり、信教の自由が根本の思想になっていて、これが近代国家を象徴するものの一つと云われている。

イスラームは宗教とは云っても、政治、経済、法律と巾の広いものを含んでいるから、この点が仏教やキリスト教とは、大いに相違するところである。したがって、イスラームの教えを忠実に守り、実行するためには、国家社会がイスラームを認めることが絶対に必要となる。この点からイスラーム諸国は政教一致国と云えるでしょう。またイスラームの特徴は、個人の日常生活にも大きな規制力を持っている。

③ コーランは集団統卒の書

日本を出発するまでには、アラブに関する書籍を幾冊か、目を通す余裕があった。コーランも、当然その中に含まれていたが、落着かぬ気分で読んだためもあったのでしようが、第一にアラブにおける生活の実感を持っていないので、共感を味わうこともなく単に、読んだと云うだけで殆んど記憶には残っていない。

アンマン滞在も数か月経ってから、公私の交わりを通して体験した、我々日本人社会には無い特異な事実を思い浮かべながら、再度コーランを読み直してみても、日頃の疑問が少しず

つ解け、ヨルダン人（広くはアラブ人）の思考と行動の源泉が、コーランにあるのを体験的に知ることができた。

我々の文化とは異質なイスラーム文化との間には、思考行動の面で大変に隔たったものがある。やはりアラブ諸国は、コーランを中心に動いていると云う表現が、ぴったりとする国だと思った。

コーランは長短それぞれの、114の章から成り立っている。アッラーの神の啓示が、マホメットの口を借りて、出されたものとされていて、彼の死後、後継者たちによって集大成され、聖典として今日に伝えられたものである。

コーランを読んで感じることは、宗教書として、精神面に触れる記述は勿論含まれているが、各章の多くは、集団社会の存立にわたるもので、大変に具体的で実用的とも云える規則、規定の類で埋められている。そして、それらが理性的に、また公正、公平に表現されていると云うことである。

潰神の講りを免れないかもしれないが、集団社会における統率者の位置付けや、そのあり方、また集団のメンバーそれぞれが守るべき事柄を、アッラーの啓示として、きめ細かに盛り込んだのが、コーランであると云うのが、私の偽らざる感想である。

今から1300余年前の、7世紀の時代と、20世紀の今日とを比較しても、集団社会をより良く纏め、組織化、拡張化を実現させるための手段、方法は、マホメットの当時から、現在の世の中においても、その志向するところは全く変わり

がない。したがって、コーランは時代性と云ったものを殆んど感じさせない。マホメットの純粋な性格と、集団指導者、政治家としての卓越した能力を、如実に物語っているのが、コーランだとも云えるであろう。

④ 近代化とコーラン

ヨルダンでは、10月末から3月末までを降雨期と呼び、植樹祭や作物の種蒔きが行われる。しかし、雨期とは云っても、アンマン市内では時折り降る程度で、シリア国境に近い高山地帯の年間総雨量が平均400mm、峡谷部で200mmと云われており、慢性的な水不足に悩んでいるのが実情である。

現在、政府では、地下水と石油の探査を行っているが、今のところ、思わしい結果が得られてないようである。

水や鉱物等の地下資源に乏しいヨルダンは、第1次産業の発展を期待することは難しいため、工業立国を目指した政策が打出されており、シリアとの北部国境附近に、工業団地を誘致する計画などがあるようである。しかし、現在の体勢から、工業立国を軌道に乗せるためには、色々の障害を乗り越えてゆかねばならないが、特に思想と社会構造の変革無くしては、産業と経済機構の近代化は難しいように感じる。

思想の源泉がコーランにあると云ったが、近代化と共に、新しい解釈が必要と思われるコーランの主なる章句について、紹介してみたいと思う。

<断食の月>

イスラム世界を特徴づけるものの一つに、独得の歴制があ

り、宗教的行事はすべて、これによっている。

イスラーム暦は、30日と29日からなる月を交互に組合せた12カ月、354日を1年としていて、その9番目の月の名前がラマダーンと呼ばれている。

イスラーム教徒たちは、この月の30日間を断食するわけで、この期間中は、日の出から日没まで、いっさいの食物を口にすることが禁止されている。

今年のラマダーンは、9月6日に始まって、10月5日に終わった。真夜中の太砲の音を合図に、食事を始め、日の出を知らせる次の太砲で食事をストップ、一寝入りする。次の食事は、日没を知らせる太砲で開始することになる。

真夜中の太砲に続いて、けぎやかな鼓笛隊が市内を、巡回するため、ラマダーン中は食事もさることながら、睡眠もあまりとることが出来なくなる。断食が4、5日続くと、目に見えて痩せ、思考動作も緩慢になって来て、労働力は急速に低下することになる。官公庁、会社の勤務時間や、商人が店を開いている時間が短くなり、日中の下町は人影も疎らで、まったく火の消えた感じとなる。近代的工場でこのような状態が1か月も続いたら、結果は云わなく共明白であろう。

<メッカへの礼拝>

イスラーム教徒の宗教的実践を象徴するものに、礼拝の儀式がある。

海外研修生訓練コースを受持った方なら、アラブ諸国からの研修生が、授業中に突然、床にひれ伏して、西方に敬虔な

祈りを捧げる姿にびっくりし、授業を中断された経験を持っていると思う。

コーランでは、礼拝はアッラーとのコミュニケーションを計るための唯一の方法とされている。礼拝することによって、精神の浄化と人間性の向上が、計られるとされているのである。このため、1日に5回の礼拝の時間が指定されていて、礼拝が義務づけられている。(コーランでは、昼間の両端と夜の近づく時刻及び正午の4回が啓示されている。)礼拝にあたっては、事前に心と体を清めることが条件とされていて、コーランにはこれらのことが、大変細かに述べられている。

衛星地上局におけるラマダーン中の正午の礼拝は、平常の倍、1時間行われていたが、他の企業においても、ほぼ同様のようであった。したがって、ラマダーン中は、勤務時間の短縮と礼拝、加うるに労働意欲の低下で、殆んど仕事にならないのが実状である。

同じイスラーム教徒でも、エンジニヤは、この集団礼拝には加わらず、また礼拝を行っていないのは、階級制度其他の原因しているようである。

<主 要 評 語>

最近、バレーボールの指導で、国際交流基金より派遣された檜山弘氏(2年間滞在)が、ある時、私に次のようなことを洩された。

「選手の練習態度を観察していると、練習時間が来てもベンチを立たぬ選手がいるので体の調子でも悪いかと思って、

尋ねたところ、学校でサッカーの練習をしたので、今日は見学にします。」と云う答が、はね返ってきたそうである。

このようなケースが割に多く、体力がないからであろうかと、岡氏は首を傾げていた。職場における仕事の与え方や、仕事のやり具合を見ていると、やはり同じようなことが云えそうである。上司と部下の間、あるいは、作業者と仕事との間には、何か見えない枠のようなものがあるように感じた。

正午の礼拝に支障のないように、仕事量を調節しているようですし、また勤務時間を超過して、作業が継続されると云ったことも殆んどない。ただし、時間外勤務については、賃金支払いの制度がなく、代休制度であることと、テクニシャンの殆んどは、ラジオ、テレビ修理のアルバイトをしていることに、原因しているとも考えられるが、いずれにしても、互に一線を越えないよう、意識している感じである。

仕事の量とか質をコントロールしていると思われる枠については、コーランと深い関係にあると思われる。すなわち、コーランの第2章には次のように述べられている。

「主よ、あなたがわれわれより以前の人々に負わされたような重荷をわれわれに負わせないで下さい。主よ、われわれが負いきれぬような重荷をわれわれに負わせないで下さい。」
ここで負いきれぬ重荷とは、自己の能力以上のものと解釈できるが、この点、衛星地上局の職員は、労働と賃金との間におけるブレイキング・ポイントと理解していた。

スポーツに限らず、一般の仕事においてもそうであるが、

苦しさに耐え、これを克服することによって、自己の体力や能力を伸ばすことが可能になるものである。しかし、賃金のみならず、多方面にわたって、学歴超偏重の傾向が見られるヨルダンにあっては、自己啓発の動機付けとなる材料を見いだすことは、大変に難しいと感じた。

(ハ) 新聞・雑誌等

① 日本からの購読方法・購読料

新聞・雑誌の海外購読者を対象に、サービスを行っている会社があるので、利用されるとよい。

海外新聞普及会社(東京都港区芝浦2-9,

電話453-8311)

AIRMAIL 扱による購読料の一例

週刊朝日, 新潮等	880円/冊
朝日新聞	2,470円/月
日経新聞	2,670円/月
小説新潮, 文芸春秋等	1,640円/冊

購読契約期間は、3ヵ月単位であり、初回分のみ払込んで、次回からは現地から払込むようにすればよい。

② 日本語雑誌等の販売店の有無

アマン市には無いが、ベイルート市の書店では、販売されている。英語版のJORDAN NEWSが、日刊で発行されるようになったので、書店と購読契約するとよい。価格は、一部が50フィルス(45円)である。

(ニ) 理髪・美容・クリーニング等

理髪店・美容室等は清潔で、設備的にも日本と大差がない。理髪はカットのみで、料金は店により異なるが、350フィルス(315円)から600フィルス(540円)程度である。顔剃りのみの場合の料金は、カット料金とほぼ同額である。美容については、データーを持っていない。

クリーニング店は多数あるが、技術的レベルは低い。スーツ等の背広は、ピカピカに光って戻ってくるので注意を要する。

Yシャツ	150フィルス(135円)
背 広	700フィルス(630円)
ネクタイ	100フィルス(90円)

(6) 買 物

ジャバラ・アムマン通り等、高級住宅街には規模は小さいが、日本と同様なスーパーマーケットがあるので、食料品、日用雑貨品類は入手が容易である。ただし、野菜、果物等は、青果市場で購入したほうが新鮮でもあり、安価である。青果市場等では英語が殆んど通じないから、アラビア数字の読み書きを憶えておく必要がある。

一般の現地人商店は、業種毎に集って営業していることが多い。品物は定価販売であるが、御土産品店では、普通20%程度の値引きをする。ヨルダン産の御土産品は、マラカイト(くじゃく石)の指輪位で、殆んどものは近隣諸国からの輸入品である。

(7) 今後赴任される専門家へのアドバイス

① イスラーム教義の理解に努めること

我々日本人はやゝもすると、日本的発想のもとに思考行動し、現地人との間におけるギャップを忘れ勝ちである。現地人の殆んどは、コーランをベースに行動していると思われるから、コーラン各章句の意味するものを早期に体得するよう努力すべきである。宗教批判は百害あって一利が無いので、絶対に慎むこと。

② 現地人のプライドを傷つけないこと

誇り高き民族であるから、叱りとばすような言動は絶対に行ってはならない。またこのような言動は、周囲に対しても悪い影響を与えるので、プラス面が全くない。一般社会生活を観察すると、物静かに話をし、隠かに行動するのが常で、我々日本人のようにあくせくしていない。議論は長時間に及ぶのが普通であり、嫌気をさすことが多いが、専門家の任務遂行上からは、これに耐えることが大切である。

③ 情報伝達システムに留意すること

官公庁内における情報伝達システムは、双方向性ではなくて、上意下達のみの方方向である。下位職が自発的に上位職に対して、意見を述べるようなことが出来ない社会であるため、フリーな立場にある専門家が代弁者となって、このような意見を上部に反映させる必要が生じることもある。公私両面において、何か問題が生じた場合には、その問題について解決能力（責任）を有する者と話合ひことが必要で、下位職の者といくら話合っても、期待出来る結論を得ることは出来ない。指導計画の立案・実施時にも、この点の配慮を忘れな

いこと。

④ 好意に対するお返しを忘れぬこと

現地人が他人に対して、理由もなく親切に面倒を見るようなことはない。必ずその親切に対する対価として、自分もそのようにして欲しいと云う期待感のもとに、行動していることを忘れてはいけない。これらは私生活面のみでなく、公的な分野においても同様であり、私は着任早々、この事実を経験した。

⑤ 約束違反は気にしないこと

相手にもよるが、約束事が約束通り実行されないことが多く、実直な日本人は其の都度、イライラさせられることとなる。日常茶飯事のことであるから、怒ったりせずに、諦めることが肝心である。

⑥ パーティ計画時の注意

親しい友人関係を作る上で、パーティを催すことは効果的である。現地人をパーティに招待すると、友人連れで現われることが多いので、多少余裕をみて準備すること。料理はテーブル一杯になる位、サービスするのがマナーであるから、ボリュームのあるアラビヤ料理が適当である。料理はレストランに依頼すれば配達もする。また、食器其の他も貸してくれるから、自宅でパーティを催すことは容易である。ホームパーティには、イスラーム教徒の女性も参加することがあるが、この場合には女性専用の部屋を用意し、男女を分けてサービスする必要がある。パーティの開催時刻は、午後8時頃

からが適当であろう。

(1) 祝祭日と勤務時間

イスラーム圏諸国は、金曜日を安息日としているので、この日は、官公庁、私企業、学校等は休みである。但し、クリスチャンが経営する商店は、この日は休まずに日曜日を休日としている。祝祭日と安息日とが重なった場合には、主曜日が振替の安息日となる。祝祭日数は、次のようになっているが、祭日はイスラーム暦に従っているので、年により祭日の日が変わる。

祝日 年間に7回、 7日

祭日 年間に5回、 11日

尚、キリスト教徒は、以上の外に、クリスマス、ニューイヤー、イースターを祝祭日として休むことが出来る。イスラーム圏諸国のニューイヤーはイスラーム暦によっているので、太陽暦の1月1日は休業しない。

官公庁、私企業等の勤務時間は次のようになっている。

私企業 { 08:00~13:00
 15:00~18:00

銀行 08:00~14:00

但し、営業は08:00~12:30

官公庁 08:00~14:00

官公庁でも、私の勤務していた BAQA 衛星通信地球局は、市中心から大分離れているためか、勤務時間を次のようにしていた。

土曜日 08:00~17:00

日曜日～木曜日 08:00～13:30

尚、ラマダーン（断食月）中は、勤務時間が1時間短縮される。

(イ) 夏時間の採用

数年前から夏時間を採用している。適用期間は、5月から9月初旬までで、時刻が1時間進められる。尚、日本との時差は7時間（遅れる）であるが、夏時間中は時差が6時間となる。

II 大使館等連絡先

大使館

住 所 THE EMBASSY OF JAPAN
P.O. BOX - 2835
AMMAN, JORDAN

電 話 42486, 42487

電 略 TAI SHI AMMAN

Telex C. 1518
A. 1518 TASIJO

